

日本学校教育相談学会

静岡県支部だより

平成22年4月

学校教育相談学会 第21回総会・研究大会 沖縄大会に参加して 支部理事長 梶原俊宏

昨年の8月初旬 3日間の日程で沖縄国際大学を会場にした全国大会が「ひびき合う心を育てる学校教育相談」をテーマに開催されました。これは九州・沖縄地区研修会を兼ねていて後援には県教委と小中高・特別支援学校長会が名を連ね、遠方にもかかわらず盛大な大会になりました。

第一日目は午前午後とも交流分析、絵画療法、発達障害等に関する7テーマ別のワークショップでしたが自分は「コンサルテーションの活かし方と進め方」のコースに参加しました。更に会場を変えて全国支部代表者会、引き続き支部代表者懇親会が持たれました。代表者会では会計・事業報告、事業計画の検討及び各支部の活動概要、課題等が順次報告されましたが共通しての課題は会員の高齢・減少化でした。

2日目の記念講演は東大の森俊夫先生の「広汎性発達障害をもつ子どもたちへのかかわり」という関心ある演題によるものでプロジェクターを使用し聴衆を引きつけました。また国際大学に心理カウンセリング専攻科もあり学生らしい聴衆も見えていて広い会場を7~8割方埋めました。午後は今井五郎先生のコーディネートによるシンポジウム、平行して別会場で実践事例・研究発表も14分科会、41本と盛会裏に行なわれていました。自分はどちらにするか迷いながら研究発表を割愛し、シンポジウムに参加しその雰囲気、形態をも視察しました。テーマ「学校教育相談の現状と課題」・・・所属校への定着をどう図るか・・・のシンポジウムは階段座席である講堂で行われましたが参加者が驚くほど少なくシンポジストにも気の毒なくらいでした。

夜は会員相互の懇親会がありましたが大連夜になるので遠慮しました。

3日目は残りの実践事例・研究発表と6本のポスター発表でした。実践事例・研究発表のどれも魅力あるテーマでしたが特別支援を要する児童への関わりについて学級・学校全体で取り組んだ九州地区小学校の熱い発表を拝聴し午前中で終了散会しました。

大会実施上、研究部門とは別に例えば書籍販売、飲み物のサービス、会場案内や分科会等の会場設定等々のハード面がありますが、ただ盛大に祭り気分をというのではなく静岡らしさを出し、心のこもった内容の充実したものに出来たらと思いました。

また大会誌巻末に広告の件、さらに従来からの大会形態のようですがシンポジウムと実践事例・研究発表の同時進行の件、発表に使用するプロジェクター等機材調達、後援依頼、宿泊交通業者選定など検討事項も多くあることを改めて感じました。

沖縄でも準備に時間を要したと聞いていますが出来るものから早めに取り掛かることが肝心ではないかと2年後に迫った静岡大会を思いながら大会を振り返ってみました。

ピア・サポートのすすめ

日本学校教育相談学会静岡支部理事 藁科 正弘

静岡県でも昨年はいじめの関係が疑われる、中学生の自殺事件が起こりました。いじめの解決はご承知のようになかなか難しく、平成6年11月に愛知県で中学2年生大河内清輝君のいじめによる自殺があってから、文部省は平成7年度から「スクールカウンセラー活用調査研究」事業をはじめました。しかしいじめはまだ根絶はできません。

最近の子どもは、集団に溶け込めない子ども、他とのかかわりが苦手な子、すぐ切れる子などが多くなり、総務庁の調査では小中学生の23.4%は「人は信用できないと思う」33.95%は「自分が満足していれば、人が何を言おうと気にならない」と答え、他人とかかわりを拒む意識が広がっているといわれます。

このような状況の中で、最近ピア・サポート活動が注目されてきました。ピア(peer)とは「仲間」のことで、仲間同士で支えあう活動です。ピア・サポート活動はカナダで発祥しました。1970年代にカナダではスクールカウンセラーが配置されましたが、一般の生徒にはなかなか浸透しませんでした。そこでプリティッシュ・コロンビア大学レイ・カー(Ray Carr)博士が中心になり大掛かりな実態調査をした結果、中・高校生は実際には、仲間との関係、将来の職業選択、学業など、さまざまな悩みに直面していることが分かりました。そして彼らは80%は友達同士で相談しあっていることが分かりました。そこで1979年にピア・ヘルピング活動としてはじめたのです。カナダのトレバー・コール(Trevor Cole)博士はいろいろな方法を試みて、行き着いたのがこのピア・サポートだったといっています。

日本では昭和63年に石川県教育センターで不登校生徒に互いを支えあうスキル訓練を始めていますが、平成6年にNHKが英BBC放送が製作したピア・カウンセリングの紹介「いじめ追放の試み」を放映してから広まってきました。横浜で前述のトレバー・コール博士を招いて講習会を開いたのを機に研究会が発足し、平成8年から日本学校教育相談学会の有志による海外視察も始まりました。筆者も平成11年の視察団に加わりカナダやニューヨークの実態に触れ、その可能性を実感してきました。その後日本でも着実に発展してきて、前橋市立鎌倉中学校をはじめ高崎市立矢中小学校など各地の学校で実践が行われるようになり、日本ピア・サポート学会も発足しました。

学校におけるピア・サポートは、教師がまず子どもたちに相互支援に必要な理念や技法を継続的に指導し、子どもにできるさまざまな援助活動をマイ・プランとして自分で計画させ、それを子どもの自発性、自主性を尊重しながら展開します。

1 その活動は、学校の実態にあったさまざまな活動が試みられています。海外で行われているものも含めて、いくつか例を挙げてみます。

(1) 挨拶

・学校内で教師や仲間に、明るく優しい顔で挨拶したり相手の挨拶を受ける活動をする。

(2) 手助け(Peer helping)

・新入生に学校を案内したり、他の子どもを紹介したりする。

例：「グレーター・ワゴン」プログラム(カナダ)・新入生への出前相談(日本)

新入生や転入生を対象にピア・サポーター2人で学校を案内したり、先生を紹

介したり、学校生活に早くなじむよう援助する活動をします。

例：昼休みに1年生の教室近くで待機したり、1年生の教室を訪問して相談を受けます。

・引きこもりがちな子どもが自信を取り戻せるように、声をかけて一緒に遊んであげる。

例：秘密の友だち(シークレット・バーディ)(カナダ))

廊下やグラウンドで寂しそうにしている子どもに対して、声をかけてやったり、目と目を合わせて微笑みかけたりして、いつでも話を聞いてあげたり、自分から誘って遊んであげる活動。ピア・サポーターだということを告げず、かかわりを持ちます。

・障害をもつ生徒への援助プログラム

例：学校内のいろいろな障害を持つ生徒が、年齢相応の人間関係が取れるように一緒に行動し、援助活動を行います。

・社会的に未熟な子どもや友だちを必要とする子どもがいる場合、ピア・サポーターが力になることを教師側から伝えてもらい援助します。

(3) 問題にかかわるサポート(Peer mediation)

・「いじめっ子」と「いじめられっ子」の仲裁などいじめ問題に取り組みます。

・校庭や校舎を回ってけんかの仲裁をしたりして、子どもたちの遊び場で起こる小さな問題を発見し、問題解決に取り組めるように活動します。

・いじめに対して「嫌」と言える自己主張のスキルを教え、手本となるようにします。

(4) ピア・サポート・グループ(Peer support group)

・健康や進路に関する会合 ・喫煙予防プログラム - 地域の小学生を対象に喫煙予防の授業を行います。

2 このようなピア・サポート活動は、教育的に優れた利点があります。

(1) まず児童生徒自身にとっては コミュニケーション能力が高まり、自己や他者について理解や関心が高まり、他者に役立つ自分を発見して喜びを感じることができるようになり、自尊感情が高まり、尊敬されることへの自覚が高まります。

(2) また教師にとっては 生徒理解が深まり、生徒の持つ力を見直すことになり、教師と生徒の信頼関係も深まります。生徒間の対立の解消に役立ち、いじめや問題行動への早期対応へとになり、それは 保護者との関係の深まりに通じます。

(3) その結果、学校全体として 生徒は学校生活に積極的に参加することになり、校内に生徒の友情の輪が広がり、思いやりや支え合いの暖かい雰囲気生まれ、身近に支えてくれる人がいることへの安心したやさしさのある学校環境が醸成されます。

このようにピア・サポート活動を通しての生徒の成長は目を見張るものがあります。それは子どもたちにとって、トレーニングで学んだことを、毎日の生活の中で子どもなりに真剣に対処し体験的に学んでいく活動だからこそ、身につき好ましい態度や行動につながっていくものと思われます。

最近、沖縄県立前原高校の「子どもたちによる『いじめ根絶運動』支援事業」研究実践報告書を手に入れました。この学校はこの事業の研究協力校としてピア・サポート活動に取り組んできたのですが、その成果は沖縄タイムス(2010.3.5)にも紹介されています。それによると、07年度17人いた中退者は09年度は6人に減少し、08年度前半まで教室に入れない生徒が相談室に多数いたが、本年度は常時相談室を利用している生徒はいなく

なったということです。

静岡県でも、県立浜松東高等学校や藤枝市立青島中学校のように実践している学校が出てきました。藤枝市は「子どもが安心して学べる学校づくり推進協議会」を中心に、今後ピア・サポート活動を市として推進する方向で検討しています。今後静岡県下にこの活動が普及していくことを強く期待したいと思います。

21年度活動報告

1. 研究大会

- (1) 総会及び第1回研究大会 平成21年6月13日(土) 福祉会館
研究発表 「自分で出来ることが増えたY君 担任と親を繋いだ交換日記」
藤枝市立青島北小学校 植田三喜
講演 「教育に活かすグラッサー博士の選択理論心理学」
認定選択理論心理士 磯部隆
- (2) 第2回研究大会 平成21年10月17日(土) 県立静岡高校同窓会館
講演 「学校でこんなに使えるソリューション・フォーカス」
県立大井川高校 丹治静子
事例発表 「不登校高1A子の事例」 県立静岡高校 増田道則
- (3) 第3回研究大会 平成22年1月23日(土) 県立静岡高校同窓会館
講演 「ピア・サポートの基礎 児童・生徒の支援に活用するために」
静岡福祉大学非常勤講師 臨床心理士 藁科正弘
ピア・サポートトレーニング 県立浜松東高校 山口権治
2. 理事会 4月11日(土)、6月13日(土)、8月29日(土)、10月17日(土)
1月23日(土)、2月27日(土)、3月20日(土)
3. 学校教育相談実力養成講座
7月25日(土) 8月24日(月) 9月23日(土) 10月24日(土)
11月7日(土)
4. 第24回研究大会実施準備委員会 8月29日(土) 10月17日(土)

お知らせ

1. 支部会員の方の著書です。
磯部隆「よりよく生きるための心理学 9つの心理学と選択理論」(四六版、1300円 + 税。ネットで購入。アマゾンか静岡学術出版教養ボックスで検索してください。)
2. 支部でいじめの事例集を編集しました。出版する方向ですすんでいます。
3. 支部のホームページを開設予定です。
4. 第3回中部ブロック研修会を本県で開催します。8月21日(土)です。
門真一郎先生の「高機能自閉症とアスペルガー症候群」を中心とした講演です。詳細は後日ご案内します。
5. 24年度に学会の研究大会が本県で開催されます。今年度には大会の骨子を作成する必要があります。支部会員皆さまの御協力と御支援を切にお願いします。